

働きながら学び続けられる環境へ

本大学院は、大学院に直接来ることが難しい方のために、
オンラインを最大限に活用した柔軟な学修・研究指導を行っています。

看護職、子育て中、県内・県外・海外在住の方など、
多様な背景を持つ方が、それぞれの生活と両立しながら学べる環境を整えています。

ACCESS

■公共の交通機関で

- ◎ JR高松駅から市営バスに乗り「看護大学・看護大学前」下車／約5分
- ◎ JR金沢駅からIRいしかわ鉄道・JR七尾線で、高松駅下車／約30分
- ◎ JR七尾駅から七尾線で高松駅下車／約50分

■車で

- ◎ 金沢森本ICからのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約25分
- ◎ 小松空港から北陸自動車道小松ICへ、
金沢森本ICで降り、のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間
- ◎ のと里山空港からのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間

Google Mapはこちら ▶



石川県公立大学法人
石川県立看護大学 ■大学院

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319
E-mail: office@ishikawa-nu.ac.jp <https://www.ishikawa-nu.ac.jp>



大学院案内

2027
大学院—看護学研究科
GRADUATE
SCHOOL

石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY



看るが拓く。

社会の変容は加速し、
人を支えるあり方も変わり続ける。

私たちが「看る」のは、
AIやテクノロジーと共存する2040年に向けて、
人に寄り添う看護の新たな価値を創り出すこと。

能登から見えた未来の日本に向き合い、
わたしたちは人、暮らし、地域、
そして社会を探究し続ける。

その探究が、世界のウェルビーイングを拓く。

本学は「災害に強い大学になる」ための取り組みの一環として
令和7年度から **石川県寄附講座 災害実践看護学** を
新設しました。

本大学院ではオンラインを活用し、
地域や職場を離れずに学べる学修環境を整えています。

- 博士前期課程（健康看護学領域、実践看護学領域）
- 博士後期課程

次世代看護学を創造し、「見る」を拓く研究者へ

石川県立看護大学 学長 真田 弘美 (東京大学名誉教授)
Sanada Hiromi

2040年の社会変化を見据え、次世代の看護学を構想する

2040年に向け、日本はこれまで誰も経験したことのない社会構造の変化を迎えます。人口減少、超高齢社会、医療資源の偏在、災害の激甚化、そしてAI・DXによる社会変革。看護学には今、従来の延長線上では対応できない新たな理論と実践が求められています。だからこそ、これからの大学院には、「既存の知識を学ぶ場」ではなく、「次世代の看護学を創造する場」であることが求められます。

能登半島地震の経験から、災害実践看護学という新たな領域を切り拓く

本学大学院は、能登半島地震と豪雨災害を経験した看護大学として、災害実践看護学を新たな学問領域として確立しようとしています。被災地で見たのは、災害が単なる急性期支援では終わらないという現実でした。避難生活、地域の崩壊、高齢者支援、慢性疾患管理、孤立、心のケア——そこには長期的かつ科学的な支援モデルの構築が必要です。

そのためには、「経験」だけではなく、「研究」が必要です。本学大学院では、実践知をエビデンスへと昇華し、人々のウェルビーイングを支える新しい看護学を創造することを目指しています。さらにこれからの看護学は、人だけ

で完結するものではありません。AI、遠隔医療、センシング技術、データサイエンス、工学との融合など、多様な領域との共創が不可欠になります。

学際的な共創と研究を通して、「未来を変える看護」を世界へ発信する

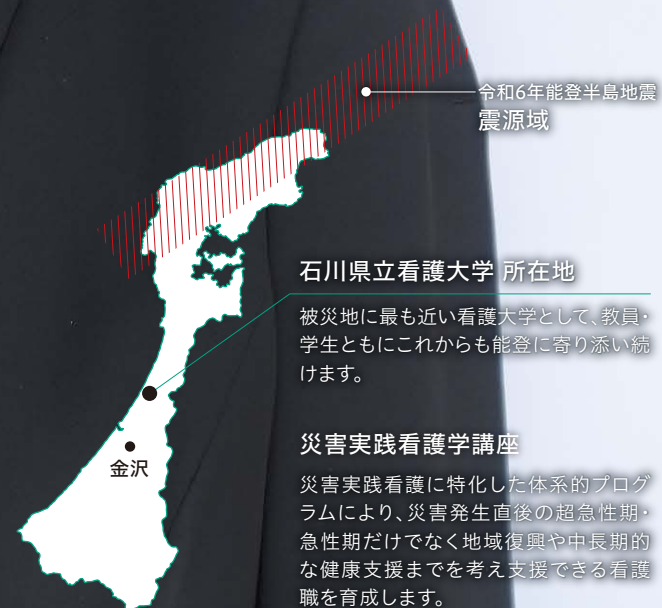
本学は、「無いなら創る。いないなら育てる。」という精神のもと、産学連携や学際的研究を積極的に推進しています。看護職だけではなく、多様な専門性を持つ院生が集い、議論し、新たな価値を生み出す大学院を目指しています。

博士前期課程では、論理的思考と批判的思考を基盤に、次世代の実践と研究を構想する力を育てます。博士後期課程では、理論構築、技術開発、実装研究を通して、世界に発信できる独創的な研究を追及していただきたいと思います。

看護は、社会課題に最も近い学問です。だからこそ、看護学には未来を変える力があります。「見る」を拓くとは、人類の未来を拓くこと。その挑戦を、ここ石川県立看護大学大学院から共に始めましょう。

真田 弘美 学長 Profile

- 石川県金沢市出身
- 聖路加看護大学卒業 医学博士
- 米国イリノイ大学大学院留学研修
- 東京大学健康科学・看護学専攻長、学科長、グローバルナースセンター センター長を経て2022年4月より現職
- 元日本看護科学学会理事長、元日本褥瘡学会理事長、元日本創傷・オストミー・失禁看護管理学会理事長、元日本看護協会副会長



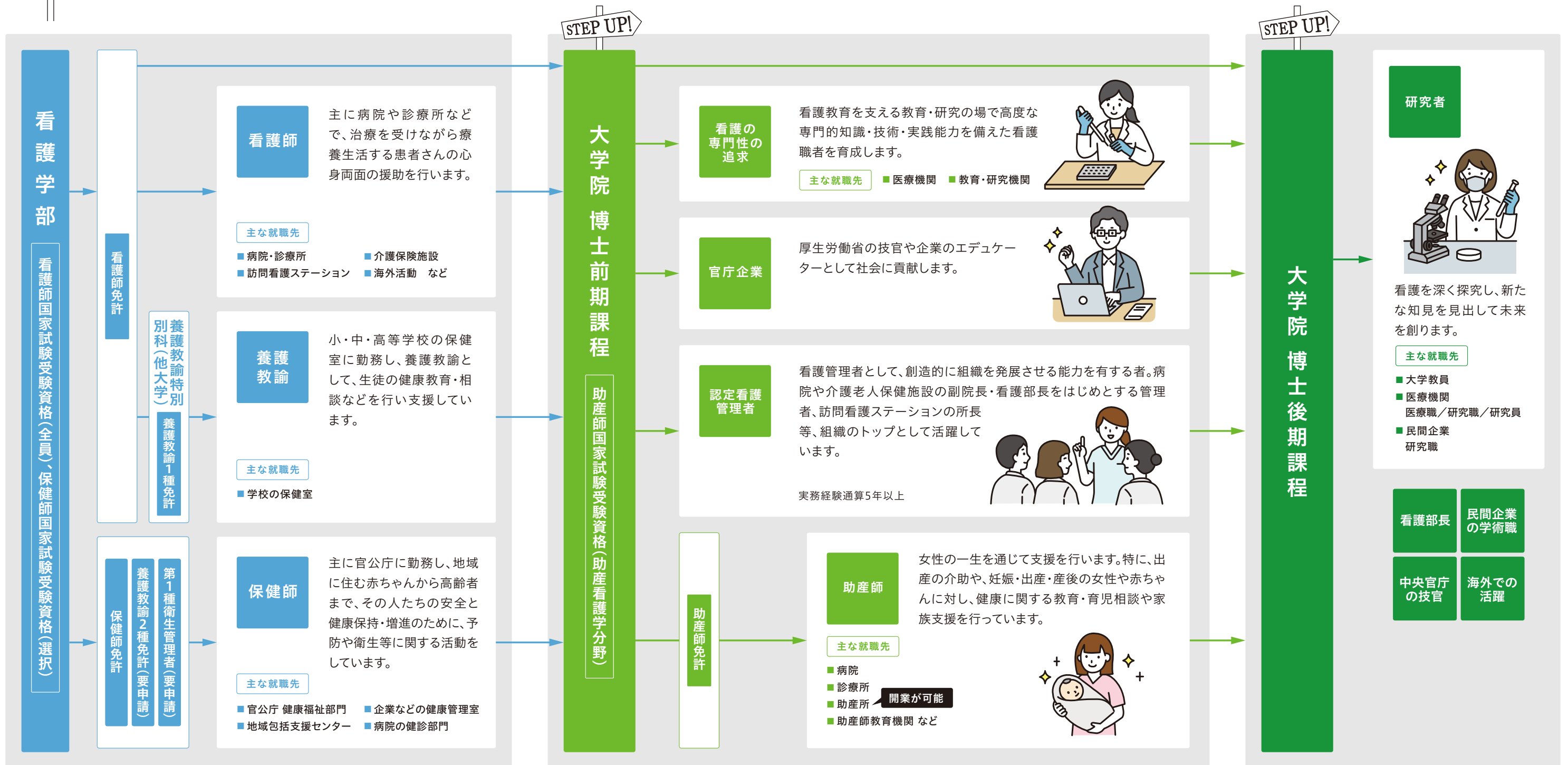
Contents

学長メッセージ	03	大学院カリキュラム	13	エデュケーショナル・フィロソフィー	18
看護のキャリアステップ	05	研究教育分野の紹介	15	アドミッション・ポリシー	
大学院を修了し、活躍している先輩たち	07	キャンパスマップ	16	カリキュラム・ポリシー	
大学院の概要・構成	09	入試情報／入学金および授業料など	17	ディプロマ・ポリシー	
研究指導教員と研究テーマ	11			研究科長メッセージ	18



看護のキャリアステップ

社会のニーズの高まりから看護職の可能性はどんどん広がり、臨床の現場で働くことはもちろん、教育や研究の道で活躍する道もあります。キャリアを重ねた後に、新たな高みを目指して、大学院へ進学する方もたくさんいます。新たな道へチャレンジする場を本学は提供します。



大学院修了生の進路

大学院創設以来、充実した指導体制のもとで修了者は大学院で身につけた幅広い見識と自身の専門性を活かし、本学内外の大学院へ進学のほか、それぞれの専門領域に関連する多種多様な職種で活躍中です。

主な進路(令和8年3月現在)

[修士課程・博士課程修了生(平成31年度～令和7年度)]

大学:教員

石川県立看護大学、富山県立大学、金沢医科大学、公立小松大学、島根県立大学、園田学園大学、福岡国際福祉医療大学 など

医療・研究機関:医療職、研究員

金沢大学附属病院、富山大学附属病院、石川県立病院(中央病院、こころの病院)、金沢医療センター、金沢医科大学病院、公立能登総合病院、金沢市立病院、福井県済生会病院、東京医科歯科大学、杏林大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院、国立成育医療研究センター、大阪大学医学部附属病院、大阪医科大学病院、京都大学医学部附属病院、名古屋大学医学部附属病院 など

大学院を修了し、活躍している先輩たち

本学の大学院を修了し、教育や臨床の現場で活躍している先輩に、大学院での学びや現在のお仕事などについて、お聞きしました。

看護師



地域に寄り添い、 災害時にも支え続けられる看護へ

公立能登総合病院 澤味 小百合さん

博士前期課程 看護管理学分野 修了



能登地域の急性期を担う病院の看護部長として、看護の質向上に努めています。
大学院進学きっかけは、以前の勤務施設で教育担当師長をしていた時の、同僚師長からの誘いでした。医師をはじめ他職種を巻き込み、同じ方向性や共通言語で理解し合うために必要なことは何かを模索していた時でした。物事を多角的・批判的に深く考える必要性や自ら調べ視野を広げることの大切さを学びました。また、データを示しつつ、求められていることは何かを言語化し伝え続けることを意識しています。

能登半島地震後は、自施設だけでなく大学院で知り合い、ご縁があった多くの方々からの支援が力になりました。水が制約される中でも、高齢患者が多く災害時に発生しやすい点を踏まえ、必要な看護ケアを明言し、取り組みました。断水の中、「できない」ではなく「どうしたらできるか」を考え、工夫しながらスタッフと共に実践してきました。
看護部一人ひとりのもつ力を発揮しつつ、自施設内だけでなく他施設とのつながりも大切にしながらいきいきと働き続けられるよう貢献していきたいと思っています。

助産師



母子に寄り添う 助産ケアを目指して

石川県立中央病院 西谷 音々さん

博士前期課程 助産看護学分野 修了



入院中の妊産婦さんのケアや分娩介助、新生児のお世話、授乳・育児相談、リスクの高い症例への対応を行っています。
学部在籍中から母性看護学に興味があり、質の高い助産ケアを提供したいと考え大学院へ進学しました。
大学院では、事例を通して学生同士でケアを話し合い実践する講義に加え、助産院での分娩介助や命の授業の見学などを通して助産学を深く学べます。看護倫理など多様な講義で他科の先輩方と共に学べることも魅力です。現在は大学院で

培った学びや研究経験を生かし、妊娠中から産後まで継続して寄り添い、安心して育児に臨めるよう一人ひとりに合った支援を心がけています。
大学院では同期との関係が良く、先生方とも距離が近いので相談しやすい環境でした。同期と何度も分娩介助練習を行い、論文提出前には朝から晩まで一緒に論文作成に取り組むなど、励まし合いながら乗り越えたことが思い出です。

大学院生

臨床で得た課題意識を大切に、 在宅療養者への支援のあり方を 研究する

石川県立看護大学大学院博士後期課程

立川 啓太さん

博士前期課程 ～看護デザイン分野修了



本学博士前期課程修了後、石川県内の急性期病院の集中治療室に勤務し、重篤な患者さんのケアに携わってきました。救急搬送されてくる患者さんの中には独居高齢者も多く、発見の遅れによって病状が悪化し、長期入院や退院後の生活に大きな支障をきたすケースも少なくありませんでした。こうした現状に向き合う中で、これからの超高齢社会において、在宅療養者が住み慣れた地域で尊厳を保ちながら最期まで過ごせる支援のあり方を追究したいと強く思うようになりました。その思いを実現するため、産学連携の共同研究講座「ウェルビーイング看護学」および「看護理工学」が設置されている本学大学院に進学し、博士後期課程実践看護科学分野で、在宅療養者の生活を支える医療・介護ニーズに対し、工学的視点からアプローチする研究に取り組んでいます。臨床での経験を原点とした課題意識を大切にしながら、未来の看護を創造する一助となれるよう、研究を行っています。

看護師

精神科看護の現場から大学院へ — 社会資源の役割を問い直す

石川県立こころの病院

宮田 広成さん

博士前期課程 地域・精神・保健学分野 修了



私は精神科病院で看護師長として、スタッフが働きやすい環境づくりや、入院患者の療養環境の改善に取り組んでいます。多職種と連携し、患者がより良い形で退院できるよう支えています。コロナ禍では、社会資源の利用が制限され、地域で生活していた精神疾患のある人々の再入院が急増しました。その経験から「社会資源は、精神疾患を抱える人々の地域生活を本当に支えられているのか?」という疑問を持ちました。特に関心を持ったのは、アルコール依存症患者の自助グループです。コロナ禍以前から自助グループの減少が進んでおり、この動向は患者の回復過程にどのような影響を与えているのかこの課題を解明するため、私は大学院へ進学しました。指導教員や専門家の助言を受けながら、実践を学術的に再考し、新たな支援の方向性を見出しました。また、他分野の院生との交流を通じて、視野も広がりました。大学院への進学は、現場での疑問を深く追究し、解決策を生み出す貴重な機会です。精神科看護の未来を切り拓くために、研究の力をぜひ活かしていけたらと思います。

大学教員



嬉しかったこと苦しかったこと 全てが財産です

九州大学大学院医学研究院 松本 美晴さん

博士後期課程 コミュニティケア・看護デザイン科学分野 修了



大学教員です。基礎看護学を担当しています。
指導教員の論文に出会い、自分が学びたいのはこれだと強く惹かれました。この先生のもとで研究したいという思いが、進学を決意したきっかけです。
研究が思うように進まず、試行錯誤を繰り返す場面もたくさんありました。この経験を通して、簡単には答えが出ない問いに向き合い、粘り強く考え続ける姿勢を学びました。

経験知として受け継がれてきた看護技術を、可視化し、言語化し、次世代につなげられる知へと変えていくこと。これが私の教育・研究におけるテーマです。
論文が初めて海外誌に掲載決定したとき、言葉では表現できない感情がこみ上げたことを、昨日のこのように覚えています。同時に、研究が世界に向けて発信されることへの喜びと責任を実感した瞬間でもありました。

大学院

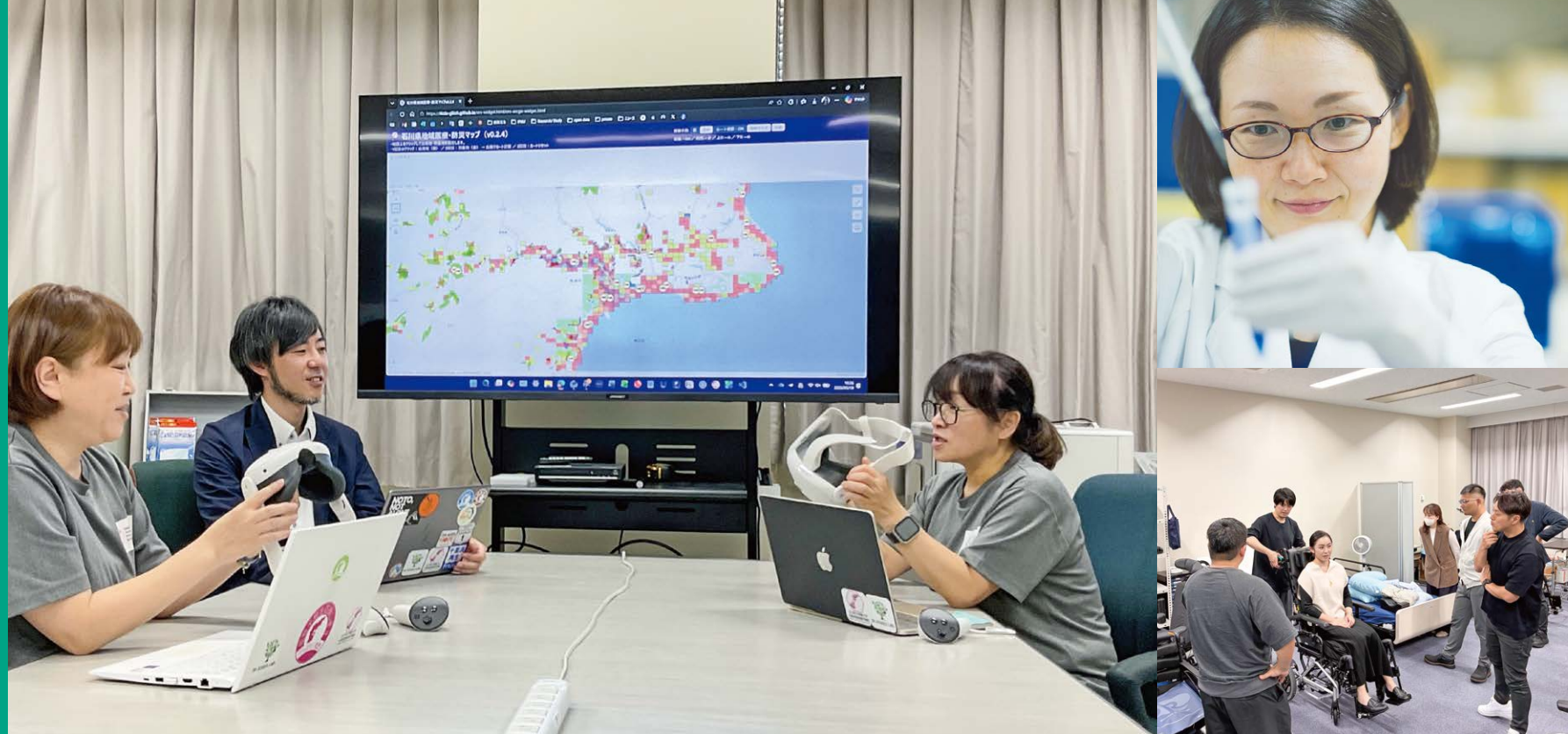
看護学研究科

高度な専門的知識・技術・実践能力をもつ看護職者、看護学や看護実践をリードする教育者・研究者の育成

大学院看護学研究科では、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

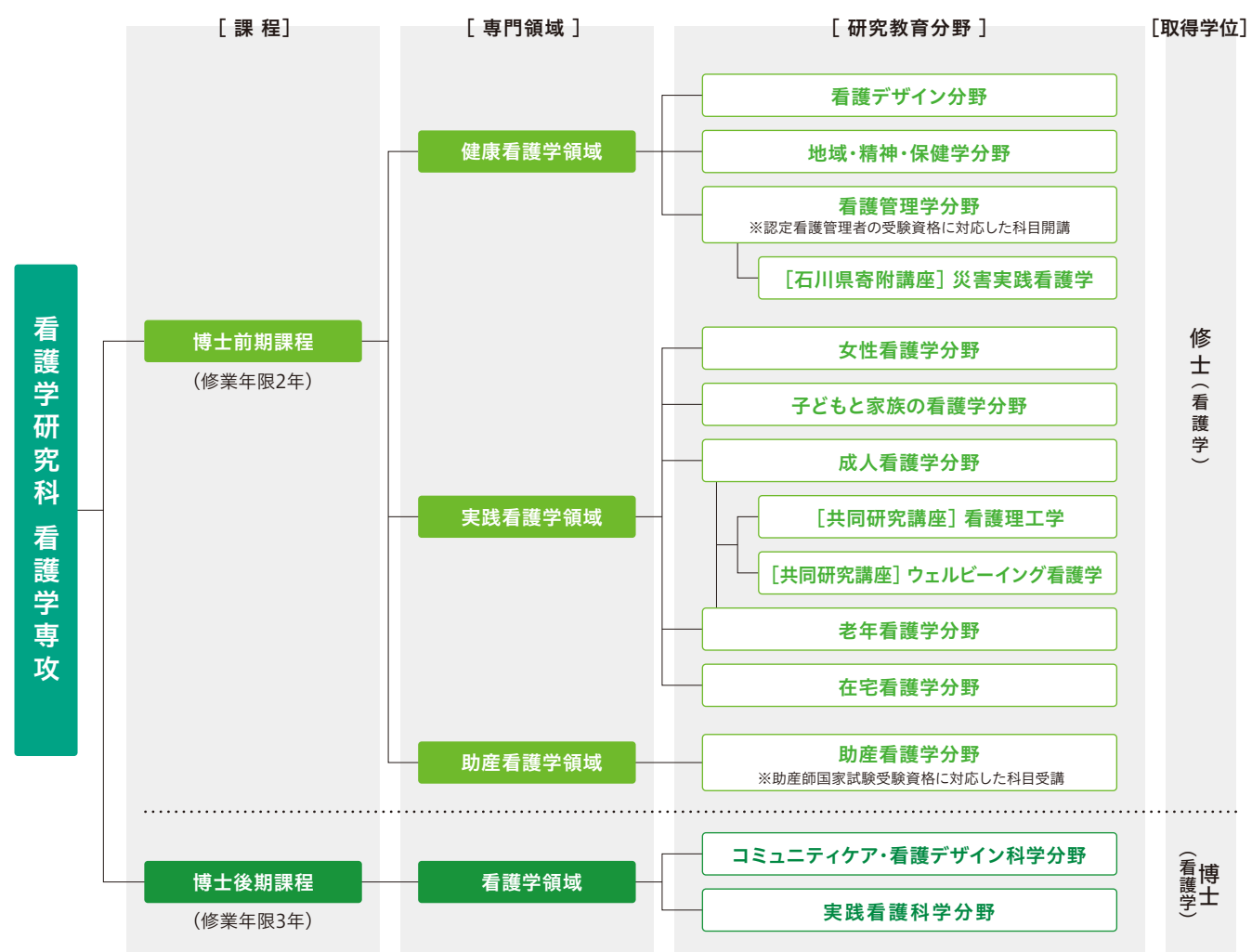
博士前期課程では、看護教育を支える教育・研究の場で、高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた

看護職者を育成します。博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者を育成します。



■ 大学院の構成

石川県立看護大学大学院看護学研究科には、博士前期課程（修士）と博士後期課程（博士）があります。博士前期課程は健康看護学領域、実践看護学領域、助産看護学領域の3領域で構成され、さらに専門の分野に分けられています。



✓ POINT

社会人の就学に関する特別措置

■ 教育方法の特例

大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第14条では、夜間その他の特定の時間または時期において授業や研究指導を行うことができる道が開かれており、本学大学院では、社会人の就学のため、在職のまま在学することを認めています。

■ 長期履修制度

大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条は、職業を有している等の事情により標準修業年限での履修が困難な者に対して、標準修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に履修を認める制度で、本学大学院では、平成22年度から導入しています。

※これらの特別措置を希望する方は、志望する看護学領域の教員にご相談ください。

助産師への道

「助産師」は厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じょく婦、もしくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子をいいます。母子のみならず、女性の生涯における性と生殖にかかわる健康相談や教育活動を通して家族や地域社会に広く貢献できる人材であり、その活動は育児支援やウィメンズヘルスケア活動を包含します。また、助産師は開業権を有し自身で開業することができます。

助産師になるには…

助産師になるには助産師国家試験及び看護師国家試験に合格する必要があります。日本では様々な助産師養成課程があり、2年間で学ぶ大学院や1年間で学ぶ専攻科、大学別科、専修学校などがあります。本学では、助産師養成課程を大学院博士前期課程に設置し、助産師国家試験受験資格と修士の学位取得をめざすコースとなっています。

認定看護管理者への道

「認定看護管理者」は多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持および向上に寄与することにより、保健・医療・福祉に貢献できる人材です。

認定看護管理者になるには…

看護師免許を取得後、通算5年以上の実務経験があり、そのうち通算3年以上は師長相当以上の看護管理経験があり、下記の要件を満たす者が認定審査を受けることができます。①「看護管理学分野」を専攻し修士号を取得している。②修士論文において看護管理に関連する学問領域の研究である。

2027年度 研究指導教員と研究テーマ

上段●:博士前期課程の研究教育分野
下段●:博士後期課程の研究教育分野

詳細情報はこちらへ 研究者情報 研究シーズ集



健康看護学領域



●看護デザイン分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

教授 小林 宏光
kobayasi@ishikawa-nu.ac.jp

- 療養環境の人間工学的研究
- 心理的刺激に対する生理反応の研究
- 生理機能・身体機能の測定を用いた看護技術評価の実験的研究
- 歩行・睡眠・自律神経機能など高齢者の身体特性の研究



●看護デザイン分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

教授 垣花 渉
kakahana@ishikawa-nu.ac.jp

- 健康の維持・増進を図る体力科学研究
- コンピテンシーを育成する教育実践に関する研究



●看護デザイン分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

准教授 松田 幸久
ymatsuda@ishikawa-nu.ac.jp

- ヒトの認知機能についての実験心理学的研究とその応用
- 脳構造に着目した認知機能および精神疾患特性に関する計量論的神経科学



●看護デザイン分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

准教授 石井 和美
kazuisii@ishikawa-nu.ac.jp

- 看護技術の安全性・安楽性に関する研究
- 清拭・手浴・洗髪などの清潔ケア技術の効果検証



●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

教授 米澤 洋美
h-yonezawa@ishikawa-nu.ac.jp

- 住民参加型の健康づくりに関する研究
- 行政保健師の現任教育に関する研究



●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

教授 美濃 由紀子
mino-pn@ishikawa-nu.ac.jp

- 他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰支援に関する研究
- 精神科身体合併症看護に関する研究



●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

准教授 大江 真吾
ohe1111@ishikawa-nu.ac.jp

- 自閉スペクトラム症への看護ケアに関する研究
- 精神障害者の社会復帰、農福連携に関する研究



●看護管理学分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

教授 石川 倫子
ishi1995@ishikawa-nu.ac.jp

- 看護師のキャリア形成・発達に関する研究
- 看護師の看護実践能力向上を目指した教育のあり方に関する研究



●看護管理学分野
●コミュニティケア・看護デザイン科学分野

石川県寄附講座災害実践看護学教授
木田 亮平
rkida@ishikawa-nu.ac.jp

- 持続可能な看護組織運営・看護提供に関する定量的研究
- 健康的な職場環境に関する定量的研究
- 医療チーム・組織づくりに関する研究

助産看護学領域



●女性看護学分野
●助産看護学分野
●実践看護科学分野

教授 亀田 幸枝
ykameda@ishikawa-nu.ac.jp

- プレコンセプションケアの推進に関する研究
- 出産前教育の効果や測定用具に関する研究
- 助産師教育に関する研究
- ※実践看護学領域女性看護学分野 兼任

実践看護学領域



●女性看護学分野
●助産看護学分野
●実践看護科学分野

教授 米田 昌代
masayo@ishikawa-nu.ac.jp

- グリーフケアに関する研究
(主に周産期の死・流産・死産・新生児死亡を対象)
- 助産師並びに女性とその家族に関わる専門職の専門的ケアに関する研究
- ※助産看護学領域助産看護学分野 兼任



●子どもと家族の看護学分野
●実践看護科学分野

教授 戸部 浩美
tobejc@ishikawa-nu.ac.jp

- 家族のレジリエンス
- 虐待・マルトリートメント予防
- 家族のためのマインドフルネス
- 養育態度



●子どもと家族の看護学分野
●実践看護科学分野

准教授 千原 裕香
chihayu@ishikawa-nu.ac.jp

- 親になる前の若者に対する子ども虐待予防教育に関する研究
- マルトリートメント予防や子育て支援に関する研究



●成人看護学分野
●実践看護科学分野

教授 紺家 千津子
ckonya@ishikawa-nu.ac.jp

- 創傷、皮膚障害に対するケア技術開発に関する研究
- 創傷・スキンケア看護における遠隔支援に関する研究



●成人看護学分野
●実践看護科学分野

教授 今井 美和
miwaimai@ishikawa-nu.ac.jp

- がんの予防に関する研究
- 感染症の予防に関する研究



●成人看護学分野
●実践看護科学分野

教授 平居 貴生
thirai@ishikawa-nu.ac.jp

- 生活習慣病予防に関する時間生物学的研究
- 骨代謝と栄養に関する研究



●成人看護学分野
●実践看護科学分野

教授 峰松 健夫
takeom@ishikawa-nu.ac.jp

- 皮膚をみる:非侵襲的スキンアセスメント技術の開発
- 皮膚を守る:統合的スキンケア技術の開発
- 皮膚からみる:皮膚をインターフェースとした病態アセスメント技術の開発



●成人看護学分野
●実践看護科学分野

教授 臺 美佐子
daim000@ishikawa-nu.ac.jp

- がん患者のスキンケアに関する研究
- リンパ浮腫のアセスメント方法の開発研究
- リンパ浮腫の遠隔ケアシステム開発研究



●老年看護学分野
●成人看護学分野
●実践看護科学分野

共同研究講座ウェルビーイング看護学教授
松本 勝
matumoto@ishikawa-nu.ac.jp

- 在宅療養高齢者の幸福寿命延伸を目指したロボティクチェア開発に関する研究
- 座位での身体状態のモニタリング手法の開発
- 超音波検査(エコー)を用いたフィジカルアセスメントに関する研究(排泄等)
- ICTやMR技術を活用した訪問看護の遠隔支援に関する研究



●成人看護学分野
●老年看護学分野
●実践看護科学分野

共同研究講座看護理工学教授
大貝 和裕
ogaikzhr@ishikawa-nu.ac.jp

- 創傷の発生・再発における細菌叢の関与の解明と是正法の開発
- スキンプロットの網羅的検査法の開発と応用
- MicroRNAを標的にした創傷アセスメント技術の開発と応用



●成人看護学分野
●老年看護学分野
●実践看護科学分野

共同研究講座看護理工学准教授
長谷川 陽子
haseyoko@ishikawa-nu.ac.jp

- スキンプロット法を用いた非侵襲的栄養評価法の開発と在宅栄養管理への応用



●老年看護学分野
●実践看護科学分野

教授 真田 弘美
sanadah@ishikawa-nu.ac.jp

- 高齢者の看護に必要な技術機器開発
- DXと創傷ケア



●老年看護学分野
●実践看護科学分野

教授 岩佐 和夫
kkiwasa@ishikawa-nu.ac.jp

- 神経疾病に関する研究
- 口腔機能に関する研究



●老年看護学分野
●実践看護科学分野

教授 北村 言
kitamura@ishikawa-nu.ac.jp

- 褥瘡のアセスメント、ケア技術に関する研究
- 高齢者の在宅療養支援に関する研究



●老年看護学分野
●実践看護科学分野

准教授 大橋 史弥
foohashi@ishikawa-nu.ac.jp

- 心不全高齢者における心機能増悪予測モデルの開発と実装
- 超音波等の機器を用いた高齢者の病態変化の早期検出・評価手法の開発



●在宅看護学分野
●実践看護科学分野

教授 桜井 志保美
sakurai@ishikawa-nu.ac.jp

- 家族介護者の健康支援に関する研究
- 施設で働く介護者のストレスマネジメントに関する研究

■ 大学院カリキュラム

博士前期課程カリキュラム

【 共通科目 】

看護分野の基礎となる看護科学論と看護研究を必修科目として配置。広い視野と知識を持ち、人間性豊かな看護を実践するための基礎科目、より深い研究に対応できる能力を養成するための科目を選択科目として配しています。修士論文作成のための特別研究も必修です。

共通A

〔授業科目〕	〔単位数〕
●看護科学と看護理論	2
●看護研究	2
○データ分析方法論	2
○コンサルテーション論	2
○ケアと哲学	2
○看護教育特論	2

● 必修 ○ 選択

共通B

〔授業科目〕	〔単位数〕
○臨床薬理学	2
○アドバンスト フィジカルアセスメント	2
○病態生理学	2
●特別研究	6

博士前期課程(修士) 修了認定基準

- 修了に必要な修得単位数…本研究科博士前期課程に2年以上在籍し、共通科目14単位以上〔必修10単位(特別研究6単位を含む)・選択4単位以上〕、専門科目16単位以上、計30単位以上を修得しなければならない。
- その他の修了要件……修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士後期課程(博士) 修了認定基準

- 修了に必要な修得単位数…本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、特論科目2単位以上、演習科目8単位以上、計10単位以上を修得しなければならない。
- その他の修了要件……博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士後期課程カリキュラム

看護学領域

■ コミュニティケア・看護デザイン科学分野

あらゆる人々に対する、生活者としてのトータリティを重視したケアをデザインし、発展させることができる看護科学者の育成を目指します。

対象の生命力を高め、生活を支援するための療養環境や生活道具・設備のデザイン、看護プログラムのデザイン、看護提供環境の設計・管理のデザイン、ゼロ次予防から3次予防に至る保健・医療・福祉システムの社会的デザインとそれを裏付ける看護理論のデザイン等が含まれます。これらを効果的かつ科学的に進めるため、人文・社会・自然諸科学との学際的なアプローチを看護学の専門性と統合し、看護にかかわる現象の本質や看護実践の基となる原理の解明を重視します。

〔授業科目〕	〔単位数〕	〔授業科目〕	〔単位数〕
看護デザイン科学特論	2	コミュニティケア科学特論	2
看護デザイン科学演習A	4	コミュニティケア科学演習A	4
看護デザイン科学演習B	4	コミュニティケア科学演習B	4

■ 実践看護科学分野

高度な研究能力と実践力を有する人材育成を目指す前期課程「実践看護学領域」を発展させた後期課程のカリキュラムです。

対象の特性および居住する場の特性などに対応した専門的看護実践を裏付ける看護学を構築できる看護科学者の育成を目指しています。そのために、保健・医療・福祉にまたがる複雑な健康課題・社会的課題に対して、対象および家族それぞれのライフスタイルや在宅から施設に至る居住の場に応じた看護プログラムの開発やその検証を行うなど、科学的に看護学を探究します。

〔授業科目〕	〔単位数〕	〔授業科目〕	〔単位数〕
子どもと家族・女性看護科学特論	2	高齢者看護科学特論	2
子どもと家族・女性看護科学演習A	4	高齢者看護科学演習A	4
子どもと家族・女性看護科学演習B	4	高齢者看護科学演習B	4
成人看護科学特論	2	在宅看護科学特論	2
成人看護科学演習A	4	在宅看護科学演習A	4
成人看護科学演習B	4	在宅看護科学演習B	4

大学院 Q&A

大学院への進学を検討されている方から、よく聞かれる質問と答えをまとめました。



博士前期課程は、社会人が勤務しながら大学院の教育を受ける「教育方法の特例」措置を受けることができますか？



本学の大学院博士前期課程を専攻する大学院生は、「教育方法の特例」措置を受けることができます。「助産実践分野」は、「教育方法の特例」措置は原則認められていません。これは、講義や演習だけでなく、医療機関で10週間に及ぶ実習の履修があり、勤務しながらの学業が非常にむずかしいからです。



博士前期課程は働きながら2年で修了することができますか？



2年(標準修業年数)で博士前期課程の修了要件を満たすことができます。ただし、2年間を超えて履修し修了を目指す長期履修制度も利用できます(P10)。



「教育方法の特例」措置(P10)を受けて、社会人として就業しながら大学院で学びたいのですが、時間割はどのようになっていますか？



就業しながら大学院の講義を受講できるように、講義は夜間(主に18時から21時)や土曜日に行われます。したがって社会人「教育方法の特例」措置をうける大学院生は、それに合わせた就業や学業のスタイルを工夫しています。

博士前期課程「助産看護学分野」と「看護管理学分野」の時間割

博士前期課程「助産看護学分野」(令和5年度前期) 平日の日中受講の場合
博士前期課程「看護管理学分野」(令和5年度前期) 夜間・土曜日受講の場合 ※社会人(「教育法の特例」措置による)

	1時限 (9:00～10:30)	2時限 (10:40～12:10)	3時限 (13:00～14:30)	4時限 (14:40～16:10)	5時限 (16:20～17:50)	6時限 (18:00～19:30)	7時限 (19:40～21:10)
月	アドバンストフィジカルアセスメント			助産診断・技術特論演習Ⅰ			
火	助産学概論		臨床薬理学				
水				看護研究		看護管理特論	
木			助産診断・技術特論演習Ⅱ			看護研究	
金	看護科学と看護理論			助産診断・技術特論演習Ⅲ		看護教育特論	コンサルテーション論
土	看護科学と看護理論		看護組織論または人的資源活用論				

■研究教育分野の紹介



看護管理学分野

看護管理学分野では、個人、家族および地域住民に対して質の高い組織的看護サービスを提供するために、保健・医療・福祉の変化に応じたヘルスケアシステムを改革・創造できる看護管理者・看護実践者の育成を目指しています。また、職位に関わらずリーダーシップスキル、マネジメントスキルを発揮し、看護組織が掲げる様々なレベルの目標を達成できる人材を育成する看護教育者の養成も目指しています。皆さんと一緒に次世代の看護マネジメントの在り方を創造していきたいと考えています。

共同研究講座 ウェルビーイング看護学

共同研究講座ウェルビーイング看護学は、医療ニーズを抱えながら在宅で暮らす人が、セルフケア(自己決定・自己実行)を通して自己実現し、幸福寿命を延ばせる支援の創出を目指します。日中・夜間の生活を支えるロボット介護やロボット介護マットレス、コミュニケーション支援、排泄を中心としたセルフケア用具の研究を、センシングー認識一動作の一連の仕組みとして統合します。看護とリハの視点で「家で続く」支援へ落とし込み、得られた情報を訪問看護・病院と共有して必要なケアにつなぐ運用(訪問看護DX)を検討します。さらに、教育・運用プロトコルの整備や、普及・実装の研究にも取り組めます。テーマが未定でも構いません。異分野融合・産学連携



の現場で、多職種と議論しながら一緒に学び、試し、社会実装まで進めたい方を歓迎します。

助産看護学分野

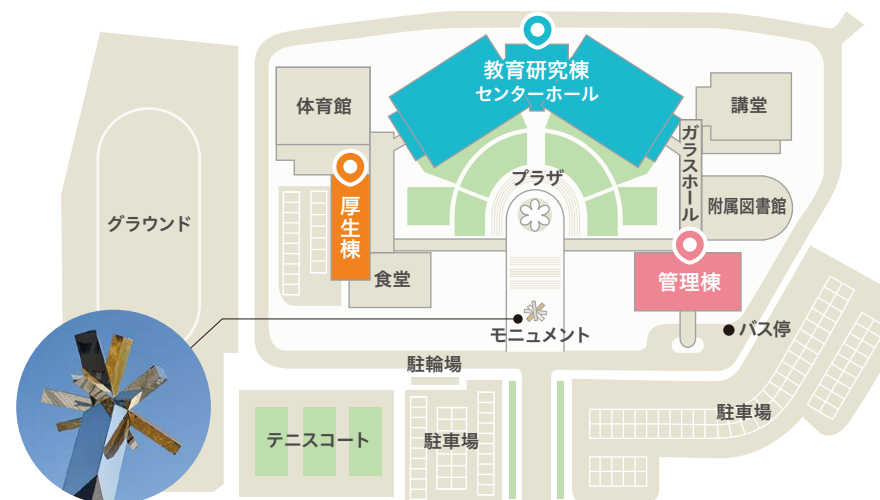
助産師国家試験受験資格と修士の学位取得をめざします。2年間のカリキュラムの中で、女性と新しい命、その家族に必要なとされるケアを提供する力を身につけ、よりよい助産・看護に繋がる研究プロセスを学びます。女性の生き方や家族のニーズは多様で複雑化しています。健康な方をはじめ医療の力や社会のサポートが特に必要となるハイリスク母子への支援についても思考を深め、実践の場で学ぶ機会を設けています。授業や実習では、学習者のユニークな個性を大切にし、学習者が自ら学ぶ姿勢を支えることを大切にしています。また、2年課程のため、1年次に実習や学習方法を先輩に相談できるのも心強いところ。ぜひ一緒に学びましょう！



IPNU

CAMPUS MAP

潮風が香る、丘陵のキャンパス。碧い海と緑に囲まれたのびやかな環境です。



■ガラスホール 管理棟と教育研究棟をつなぐ、光がふりそそぐ明るいホール。

教育研究棟

講義室、演習室、研究室などがある4階建ての建物で、学びの中心です。

1F-2F

【学習ゾーン】

- 講義室
- 情報処理演習室
- 語学演習室
- 人間機能・病態学実験室
- 看護学実習室
- 看護スキルスラボ

3F-4F

【研究ゾーン】

- 演習室
- 教員研究室
- 大学院生室



■基礎看護学実習室

看護の基礎となる技術や看護者としての基本的な態度を学びます。



■地域・在宅・精神看護学実習室

浴室やベッド、トイレ等の居住スペースを備え、在宅看護の実践技術を習得します。



■看護スキルスラボ

最新鋭のデジタル機器を導入し、様々な症状をシミュレーションすることが可能。臨場感のある実習ができます。



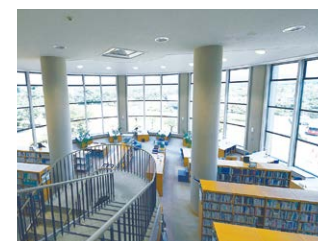
■情報処理演習室

最新機器を備え、IT化が進む医療現場での情報処理能力を養います。



■講堂

ステージと450の客席を備え、式典や講演会、ミニコンサートなどが行われています。



■附属図書館

約7万冊の蔵書を誇る、大学の頭脳にふさわしい充実した図書館。看護の専門書や雑誌に加え、一般教養や語学関連の書籍も多く、地域の看護職者や県民に対する情報提供もを行っています。館内には集中して自習できる「がんばルーム」を設置しています。



■体育館

厚生棟

食堂や売店、サークル室など、学生生活を充実させるための設備があります。校舎西側は、広大なグラウンド、トレーニングジム完備の体育館、3面の屋外テニスコートが集まるアクティブゾーンです。

1F

- 食堂
- 進路情報コーナー
- 売店
- ラーニングコモンズ
- 談話室

2F

- 和室
- サークル室
- シャワー室



■食堂

ガラス張りの明るい食堂はキャンパスのリラックス空間です。日替わりランチ450円や丼400円が人気です。



管理棟

教務学生課では、教務に関することや学生の生活全般の支援や福利厚生などを担当しています。学生生活や健康に関する相談、カウンセリングに利用できる施設や、公開講座・研究会などが行われる研修室があります。

GF

- 事務局(教務学生課・総務課)
- 地域ケア総合センター

1F

- 保健室
- 学生相談室
- 研修室
- 看護キャリア支援センター

あなたの問いが、看護の未来を拓く

石川県立看護大学大学院は、看護実践に根ざしたエビデンスを創出し、実践力の向上と社会への還元につなげる研究教育を重視しています。日々の実践や経験の中で感じる疑問、深めたい課題、解決したい看護のテーマはありませんか。本学大学院は、一人ひとりの問いを大切にし、研究として育てる場です。

本学では、講義を原則リモートで開講できる体制を整え、社会人を含む多様な学生が生活や仕事と両立しながら学びを深められます。27名の指導教員が在籍し、地域の健康支援、成人・老年・在宅・母子・助産看護、看護管理、災害看護など、幅広い専門分野から指導を受けられます。また、生物学、情報科学など他分野との融合により、新たな視点から看護の課題に取り組めることも特長です。

研究は、「なりたい自分」を明確にし、その実現に向けて歩むプロセスでもあります。あなたの経験や問いを研究へとつなげ、地域社会、臨床現場、看護の未来に貢献する一歩を、本学大学院で踏み出してみませんか。私たちはあなたの挑戦に寄り添い、学びと成長を支えます。



研究科長 紺家 千津子

Educational Philosophy

教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中において、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

教育目標

■ 博士前期課程

1. 看護学教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において直面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、高度な実践力をもつ看護職者の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成する。

3. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

■ 博士後期課程

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

3つのポリシー

- 博士前期課程(修士)
- 博士後期課程(博士)

ディプロマ・ポリシー

〔学位授与に関する方針〕

3つのポリシー

カリキュラム・ポリシー

〔教育課程の編成・実施方針〕

アドミッション・ポリシー

〔求める人材〕

3つのポリシーの詳細はこちらをご覧ください。



入試情報 入学金および授業料など

令和9年度 大学院入試情報

課程	入学定員	課程	入学定員
博士前期課程	15名(うち、助産看護学領域5名)	博士後期課程	3名

※出願期間、入学試験日程等の詳細は、入学者募集要項をご覧ください。



■ 令和8年度 入試結果

試験区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率
博士前期課程	第1次募集	10	11	11	11	10	1.0倍
博士前期課程 助産看護学領域		5	10	10	5	4	2.0倍
博士前期課程	第2次募集	—	—	—	—	—	—
合計		15	21	21	16	14	1.3倍

試験区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率
博士後期課程	第1次募集	3	10	10	10	9	1.0倍
博士後期課程	第2次募集	—	—	—	—	—	—
合計		3	10	10	10	9	1.0倍

個別の入学資格審査

■ 博士前期課程 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、受験する年度の3月31日までに24歳に達するものに受験資格を付与します。

■ 博士後期課程 個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、受験する年度の3月31日までに26歳に達するものに受験資格を付与します。

※個別の入学資格審査を希望する方は、本学教務学生課にご相談ください。

社会人の就学に関する特別措置(P10)

■ 教育方法の特例 ■ 長期履修制度

※これらの特別措置を希望する方は、志望する看護学領域の教員にご相談ください。

科目等履修について

本学大学院では科目毎に履修登録できる科目等履修生制度も用意しています。履修を希望される方は下記までご連絡ください。詳細は本学WEBをご覧ください。
TEL 076-281-8302 E-mail: kyo@ishikawa-nu.ac.jp

POINT

大学院入学者の選抜については、その詳細を学生募集要項により必ず確認してください。



本学教務学生課窓口以外にWEBおよびテレメールから請求できます。

本学に入学を志願する者で、障害を有するなど、受験上特別な措置および修学上特別な配慮を必要とする者は、出願の前にあらかじめ本学教務学生課まで連絡し、相談してください。

お問い合わせ先 事務局教務学生課 TEL 076-281-8302 FAX 076-281-8309 E-mail : nyushi@ishikawa-nu.ac.jp

■ 入学金および授業料など

入学検定手数料		30,000円	
入学手数料	石川県内者	282,000円	入学前年の4月1日から引き続き石川県内に住民票上の住所を有する者
	その他	423,000円	上記以外の者
授業料		年額535,800円	年2回分割納付
	前期納付期限	4月15日(※)	267,900円
	後期納付期限	10月30日	267,900円

(※) 入学初年度のみ6月1日

令和8年4月1日現在

※経済的理由等により、授業料の納付が困難であると認められる学生については、授業料を減免されることがあります。

■ 奨学金

日本学生支援機構奨学金制度があります。詳細は本学WEBでご確認ください。